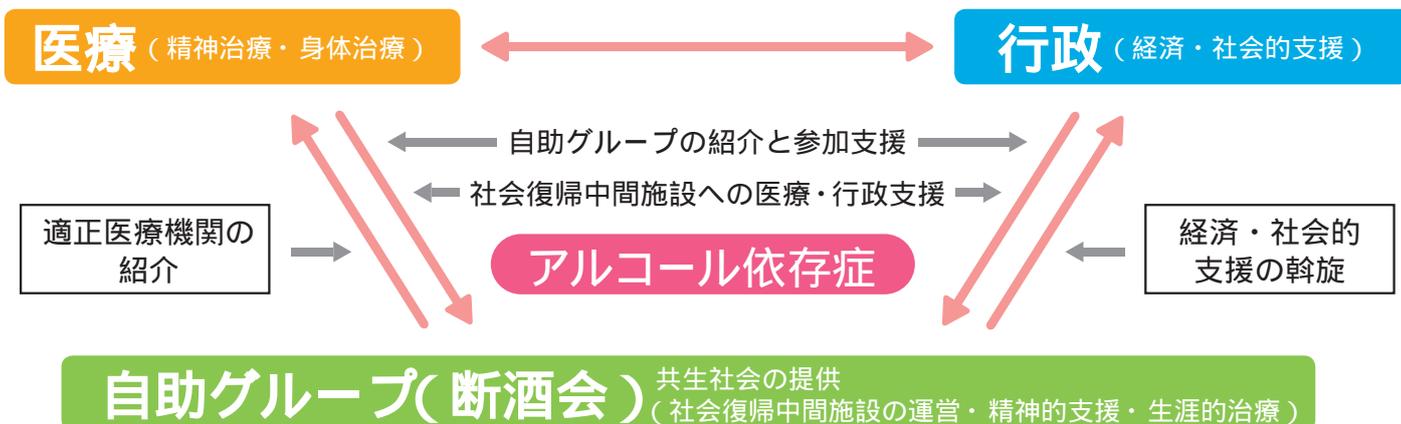


支援の輪



支援のアンカーは自助グループ

アルコール依存症は進行性の病です。緊急の危機を脱しても、再発（再飲酒）すれば直ちに元の状態に戻ってしまいます。連携ネットワークが最後まで機能するためには、三次予防（再発防止）のための自助グループ（断酒会）がアンカーを務めなければならないと言えます。



断酒会の現状と活動 断酒会のしくみ

① 断酒会員となるには

資格

断酒の趣旨に賛同する人であればだれでも入会できます。アルコール依存症者本人の家族・関係者も入会できます。アルコール以外の依存を抱えた人でも入会できます。アルコール依存症者本人に限ることはありません。

入会手続

全断連に加盟する地域断酒会に入会申込書を提出します。地域断酒会に加入すると自動的に全断連の会員にもなります。

会費

入会金と月会費、それに全断連会費（年間 3600 円）です。

入会金と月会費は地域断酒会により若干の差があります。（入会金 1000 円程度、月会費 1000 円～ 2500 円）

② 断酒会員になると

地域断酒会では断酒例会を定期的で開催しています。例会出席を習慣にしましょう。自分が所属した断酒会だけでなく、他の断酒会の例会にも出席して仲間を増やします。ここで、自ら酒害にまつわる体験談を語り、仲間の話を聴きながら徐々に断酒の指針に沿って回復への道のりを進むことになります。

全断連の主催行事にも積極的に参加します。多くの仲間めぐり合います。

断酒会の現状と活動 断酒会の現状

断酒会の組織

社団法人全日本断酒連盟一都道府県連合会・断酒会(49)一地域断酒会・支部断酒会(約600)

会員数

2009年現在約9500人です(家族会員を含めると14000人)

女性会員

全体の9%、850人です。女性酒害者が急速に増えている現状からすると、人数・比率ともに少ないと言わざるをえません。本人の周囲の環境の問題を含め女性特有の問題を解決しなければなりません。

高齢化現象

10年前と比較すると、会員全体に占める60歳以上の会員比率が15%も増えて55%に達しています。入会する時点で60歳以上の人が21%を占めるようになりました。

社会的現象と見るべきか、早期発見のための施策の立ち遅れが原因なのか、あるいは、医療機関を渡り歩くことで断酒という根本的治療を先延ばしにする結果であるか調査研究が必要です。

複合依存対策

1つの依存は他の依存を呼ぶと言われています。アルコール依存症から回復しても、ギャンブル依存はじめ他の依存に囚われる例が多々あります。また、もともと複数の嗜癖を抱えている人もいます。女性の場合は摂食障害を伴っている例が多く見受けられます。これらの依存問題に幅広く対応できる態勢を研究しています。

断酒例会

断酒例会は断酒継続の基本となる日常の活動です。全国において、年間約1700カ所で、約43000回、約80万人が参加しています。一般にも開放しており自由に見学参加もできます。

各種イベント

断酒例会とは別に、各地で大会や研修会を開催し、断酒会員の輪の広がりとの醸成に努めるとともに、酒害啓発活動に欠かせない知識の拡充と質の向上を図ります。

(連絡先)

社団法人 **全日本断酒連盟**

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 3-2-2
(TEL)03-3863-1600 (FAX)03-3863-1691

<http://www.dansyu-renmei.or.jp>

2010年初版発行
頒価 10円